

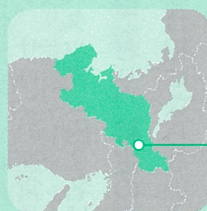


「健康づくり推進員」の育成で 会員増

京都府 やすらぎクラブ長岡京（市老連）

●クラブ数 48

●会員数 2369名(男性1024名、女性1345名)



京都府
長岡京市

都市化が進む長岡京市では、平成元年度以降老人クラブ加入率の減少が続いていましたが、27年度によりやく歯止めがかかり、昨年度は79名の増加となりました。

「情報発信型」の活動を実践

22年に組織活性部、26年に健康づくり部、28年には健康スポーツ部を新設。併せて、市内4校区にブロック会議を編成して、単位クラブ会長連絡会議などを整備しました。組織を拡充するなかで、会員増強のコンセプト（概

3 市老連の「名称」を変更

29年に市老連の愛称を「やすらぎクラブ長岡京」に決定、この度、この愛称を正式名称



「シニア大学」入校式での記念講演

念）を一般高齢者にも広く呼びかける「情報発信型」の活動を目指すこととしています。

1 勧誘ツールとしての「情報誌」

26年の創立50周年を機に、情報誌をカラーにして、わかりやすいビジュアル（見た目）にしました。これにより、会員外の方にも活動を知ってもらうことができ、勧誘ツールとして活用しています。自治会長、民生児童委員、シルバー人材センターなどの会議でも配付して、入会促進の協力を要請しています。

にしました。これにより団塊世代の若手高齢者にも親しんでもらいやすくなりました。50有余年の歴史を有する「市老連」の名称変更は思い切った決断でしたが、クラブ発展に向けた当連合会の決意を示すものです。

4 健康づくり推進員を全単位クラブに！

24年度の全老連「健康づくり中央セミナー」に参加して、翌年から、市老連中期計画を「健康」に重点化。「健康づくり推進員を全単位クラブに！」をスローガンに、薬・運動・事故防止・歯と口腔・医療・栄養の6項目を推進員育成の柱として、関係団体協力のもと、推進員の育成に頑張っています。

5 同好会で会員増

若手高齢者を勧誘するために、特に力を入れてるのは同好会活動です。単位クラブ毎にカラオケ同好会を発足させ、地区や市でカラオケ大会を開催して入会を呼びかけています。

また、ニュースポーツ5種類の研修会を実施して、その後、公式ワナゲやクロリティーの同好会がスタートしました。現在17の同好会・サークルがあり、会員への「入口」にもなっています。

2 60歳になれば「入会案内」

市役所と「行政懇談会」を通じて連携を密にして、60歳になった市民に、市から「老人クラブ入会案内書」と「同好会だより」を郵送いただき、加入を呼びかけています。また、市の広報誌や地元ミニコミ誌、京都新聞地方版にも記事を掲載いただくなど、様々なルートで情報を発信しています。

6 「シニア大学」の開校

今年3月に「シニア大学」を開校、応募された36名が第1期として入校しました。1年間にわたって毎月1回、健康づくりやスポーツ、地域お助けサポーターなどの講座、またウォーキングやパソコン、自動車の安全運転など、リーダーに必要な一通りのことの習得をめざします。

7 「セーブクラブ」の運営

市内には老人クラブがない地域が17あり、休会寸前のクラブもあります。こうした地域の方々に活動の場を提供する「セーブクラブ」を設け、現在2クラブ90名が活動中で、年内に4校区それぞれに増やす計画です。

組織・事業の見直しを進めてきましたが、高齢者の最大の目標は「健康」です。この取り組みが会員増加に必ずつながっていくと確信しています。改革は始まったばかりですが、「人生100年時代」と言われるなか、ますます新しい事業を定着させ、高齢者が長年にわたって築きあげた英知を出し切っていたただけるようなクラブにしたいと思っています。

（会長 山本 淳）



サークル活動の発表